

2026 年度 第 1 四半期決算説明会
主な質疑応答

Q: 米国関税の還付金約 170 億円の計上時期を確認したい。Q1 業績に含まれているのか、またセグメント別の計上額の内訳を教えてください。

A: 約 170 億円の還付金は Q1 には含まれていない。Q2 以降の計上を見込んでおり、セグメント別の内訳は以下のとおりである。

- オフィス・ホームプリンティング: 約 4 割
- インダストリアル&ロボティクス: 約 3 割強
- ビジュアル&ライフスタイル: 約 2 割強

Q: Q1 における米国関税費用は、前年同期と比較してどの程度増加したのか。

A: 前年度の Q1 は追加関税の対象となる前の在庫も販売していたため、利益に影響した米国関税費用は 20 億円程度であった。今年度 Q1 は 40 億円程度となっており、前年同期と比べると 20 億円程度増加している。

Q: プレジジョンイノベーションが好調に推移している要因はなにか。

A: インクジェットソリューションズでは、中国市場の回復に加え、新興国を中心に販売が拡大している。また、従来の商業用途に加え、さまざまな用途でプリントヘッドの採用が進んでおり、顧客基盤が拡大している。

マイクロデバイスでは、ネットワーク向けを中心にさまざまな分野で需要が拡大しており、水晶デバイスの販売が伸長している。スループット改善などの生産能力向上を進めながら需要拡大に対応していく。

Q: オフィス・ホームプリンティングで発生した供給問題の概要と、その影響について教えてください。

A: Q1 に一部の部材調達問題により、主に大容量インクタンクモデルの供給制約が発生した。これは原油価格高騰などの世界情勢の影響によるものではなく、個別のサプライチェーン上の問題であったが、現在は概ね正常化している。

販売への影響は、販売会社の在庫で対応したため限定的であった。一方、利益面では販売会社在庫が大きく減少したことにより、マイナス影響が発生した。

Q2 以降は、販売会社の在庫水準も回復に向かう見込みである。

Q: 通期業績予想において、前年度と比較してコスト増となっている「部材・輸送費変動」380 億円の内訳を教えてください。また、原油価格やメモリ価格上昇への対応策はどのように考えているのか。

A: 前年度からの変動 380 億円の費用増加のおおよその内訳は、原油価格 140 億円、メモリ価格 220 億円、貴金属 60 億円、その他で 20 億円である。一方で、米国関税影響は 60 億円改善する見込み。なお、メモリの高騰分については引き続き価格で対応する方針である。

以上